

(別紙3)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスヒーローズ蕨中央教室			
○保護者評価実施期間	2025年11月4日 ～ 2025年11月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年11月4日 ～ 2025年11月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	不登校の児童に対して、学校復帰や社会参加を目指した具体的な支援に取り組んでいる	ただ家から出ることを目標にするのではなく、考える力を使うことを「学習」と定義し、個々の熱度に合わせてアプローチを行っています	教室全体で行うプログラムと、一人ひとりに合わせた個別対応の内容を、より保護者に分かりやすく伝える方法を検討する

2	活動プログラムをデジタル化して保存し、その日の利用児童に合わせて多種多様な内容を柔軟に提供できる	活動プログラムが固定化しないよう、新しいネタを取り入れるなどの工夫をチームで行っている。	女性職員の配置を検討し、職員構成の多様性を高めることでよりきめ細やかな支援を目指す
3	生活空間の構造化や清潔さにおいて、保護者から高い評価（約88%が「はい」）を得ている	季節感のある大規模イベント：夏休みには、ピタゴラ流しそうめんや縁日、お菓子作り、キックボクシングイベントへの参加など、普段の教室では味わえない体験をチームで企画し、社会経験の幅を広げています	客観的な視点から事業所の質を向上させる体制を整える

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現状、女性職員がj常時いないことが懸念事項として挙げられている	プログラム案を、継続的に質の高い内容を提供し続けるための仕組み作りが必要である	職員の得意分野（適材適所）を活かし、チームワークでプログラム立案の負担を分散させる
2	活動プログラムの立案がチーム全体での立案体制にばらつきがある	地域連携は行っているものの、第三者による外部評価をまだ実施できていない	これまでの活動を記録・蓄積し、誰でも過去の成功事例を活用できるデータベースを強化する

3	地域の児童発達支援センターなど、外部機関からのスーパーバイズや助言を受ける機会が不足している	地域の他の子供たちと活動する交流の機会がほとんど設けられていない	保護者の希望を汲み取り、保護者同士が交流できる場（保護者会など）の設置を検討する
---	------------------------------------------------	----------------------------------	------------------------------------------